佐伯山の会

まど

finestra

325号

2016

September

9月

目次

■山行案内

教育講座Ⅵ実践幕営、ツェルト講座 3

山域研究その④ 鬼ケ城山・黒滝山 4

10月例会山行　三瓶山 4

■山行報告

聖岳・赤石岳・荒川岳・千枚岳縦走 5

定例会 比婆山　大膳原 11

岩見(益田・浜田)地方山々1人旅 12

薬師岳・黒部五郎岳 15

火打山～妙高山縦走 17

■ シリーズ 会心の山 vol.2

自転車で★山に登る 20

ノスタルジックな道具たちⅡ 21

● 定例集会 議事録 22

● 第5回運営委員会議事録 23

● 第６回運営委員会議事録 26

● TOPICs 28

● 行事予定 29

山行案内

９･10月の山

- ９月２４日（土）～２５日　教育講座Ⅵ　**実践幕営、ツェルト講座**
- １０月１６日（日）山域研究その④　**鬼ヶ城山・黒滝山**（県境尾根）
- １０月２２日（土）～１０月２３日（日）定例会　**三瓶山**

２０１６年度　教育講座Ⅵ　実践幕営、ツェルト講座

【日　　時】９月２４日（土）～２５日（日）小雨決行
【場　　所】（集合場所共）吉和立野キャンプ場
【集合時間】２４日　１５：００　　【交通手段】自家用車（各自ｏｒ乗り合わせ）
【費　　用】乗り合わせ車両費
【行　　程】
２４日１５：００～１７：００　ツェルトの使用設営方法　　各自設営実践
１７：００～夕食準備～懇親会（焚火）　就寝
（夕食、飲料、調理器具、食器等　又　朝食は各自用意お願いします。）
２５日　（何かいい企画ないですか、山行思案中）
５時起床～朝食、テントツェルト撤収～解散
【装　　備】ツェルト（細引きストック等必要備品）、テント、調理炊事用品食器類、夕食（ツマミ等）朝食、飲料水、ヘッドランプ、（シュラフ、カバー、マット、）

【申し込み期限】９月１７日
【参加呼びかけ】ツェルトはどんな場所、状況にも必携装備です。ツェルトは持っていてもなかなか使う機会がない為緊急時には使い方を忘れてると言うこともある為再度の使用確認も含めて又ビバーグ時の焚火等も必要な手段です初めてでない方も再度の確認の為ぜひ参加をお願いします。又フォーストビバーグ（緊急）に備えての（シュラフ等なしツェルトのみ）実践も！テントの設営もしますので、ツェルト持ってない方もＯＫです。
※ 会装備大型テント（数年使用なし）の使用可能かの確認も出来れば行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

山域研究その④　鬼ケ城山・黒滝山（県境尾根）

【期　　日】１０月１６日（日）　　【山　　域】鬼ヶ城山
【集合場所】ＪＲ宮内串戸駅　　【集合時間】午前７時
【交通手段】自家用車相乗り　　【参加費用】会規定による
【行程】宮内串戸駅 7:00→生山峠 8:00(車デポ)→松の木峠 8:30･･･稗原峠･･･鬼ヶ城山 10:10･･･相波峠･･･黒滝山 12:10(昼食)12:40･･･925.0m 峰･･･生山峠 15:40→宮内串戸駅 17:30
【装　　備】藪漕ぎ向けの服装、ヘッドライト、コンパス、地図、雨具、昼食・非常食、水
【地　　図】安芸冠　宇佐郷　　【リーダー】ＣＬ松岡

【申込期限】１０月７日まで
【山行の呼びかけ】山口県との県境にある松の木峠から吉和冠山方向ではなく、反対側の県境尾根を羅漢山方向へ歩きます。羅漢山の麓にある別荘地付近にある生山峠までひたすら県境尾根を追い求めて約 18km 歩きます。地図とコンパスを片手に初秋の尾根を歩き、まだ見たことのない景色に出会ってみませんか。

１０月例会山行　三瓶山（男三瓶山　）

【期　　日】１０月２２日（土）～１０月２３日（日）　　【山　　域】島根三瓶山
【集合場所】JR 宮内串戸　　【集合時間】午前８時
【交通手段】乗用車（予定）　　【参加費用】
【行　　程】２２日（土）JR 宮内串戸駅 8：00…北の原 10：00…姫逃池登山口 10：30…12：00 男三瓶山 12：30…女三瓶山…太平山…孫三瓶山…子三瓶山…扇沢…中国自然歩道…15：30 姫逃登山口…16：00 北の原キャンプ場
２３日（日）7：00 起床…9：00 北の原キャンプ場…温泉・昼食 13：00…16：00 宮内串戸駅
【装　　備】テント泊ハイキング装備（寒さ対策）昼食、非常食、雨具、地図、ヘッドライト
【地　　図】1/25000　三瓶山

【申込期限】１０月１４日（土曜日）
【山行の呼びかけ】６つの峰が環状に連なる山　国引き神話の舞台でもある二百名山。紅葉の初見頃と星空を堪能してみては？

【お 願 い】お勧めコース／お勧めポイント／お勧め温泉　等ございましたら、ぜひご一報をお願いいたします。

▲..目次へ戻る..

山行報告

南アルプス（聖岳･赤石岳･荒川岳･千枚岳）縦走

本計画は当初８月１日～を計画していたが、当地の天候を考慮して２日延期し予備日を含む３日～９日の計７日間で南アルプス山行を行った。以下に３名の記録者による山行記録を報告する。

８月3日(水)　移動日

【コースタイム】広島駅（8:40）==静岡（11:32）JR 静岡駅より南アルプス登山口/畑薙直行便タクシを使用。静岡駅（12:00）==畑薙臨時駐車場（14:45）（15:50）==椹島ロッジ（16:50）（泊）

ＪＲ静岡駅に１１時３２分着、ここから予約していた（静岡市のタクシー会社　千代田タクシーで３名以上なら４８００/人で畑薙臨時駐車場まで運んでくれる便利な入山手段。ただし７月１６日（土）～８月２９日（月）まで・事前予約制。必ず予約してツアーの契約が必要）タクシーで 12 時静岡駅を出発。広大な安部川沿いを上り玉機橋を渡り支流の中河内川、西河内川と次第に川筋も細くなり山間地の風情に変わる。傾斜地に茶畑のウネが静岡らしい。井川ダムの堰堤を通過、大井川の渓谷を進み第一畑薙揚水ダム上部の畑薙臨時駐車場に到着。一般車両はここまで。２時間４５分のタクシーの旅は終り。ここで登山計画書を提出。ここからはこの山域を管理する東海ホレストの小屋泊者のみ専用の送迎マイクロバスで送ってくれる。いつ落石に遭遇してもおかしくないような急峻な悪路を椹島ロッジへと向かう。ロッジで偶然関東地方で放映しているＮＨＫ【金とく番組】の山岳ライター小林 千穂と俳優 金子 隆俊に出会った。椹島から赤石岳を経て聖岳を目指す収録だとか。山行中どこかで再開できることを楽しみに別れた。宿は満員状態。ここ最近天候が芳しくなく、回復傾向になったことでどっと押し寄せてきたらしい。これから先の小屋が思いやられる。日没ごろから激しい雨。雨雲レーダーでは明日は晴れの予報を信じて眠りにつく。

↑乗合タクシー

↑畑薙臨時駐車場

↑東海ホレスト専用バス

↑NHK 山岳ライター
小林千恵と

↑椹島ロッジ

８月４日（木）椹島ロッジ～聖小屋

【コースタイム】椹島ロッジ≪送迎バス≫（6:15）==聖沢登山口（6:30）…聖沢吊橋…
（7:52-8:05）…乗越（9:50-10:04）…沢水場（10:24）…第２吊橋（10:40）…
沢水場（10:53）…岩頭滝見台（11:21?36）…聖平小屋（13:08）泊

快晴の椹島を東海ホレストの送迎バスで６時１５分聖登山口に向かう。約１０分ほどで登山口に着き、身支度をして登山開始。取っ付きからの急登で息が切れる。鬱蒼とした人工林を標高３００ｍ登ると平坦な道となり小さな沢もあるが鉄製の橋が架かっており安全道。およそ１時間３０分で聖沢吊橋に着く。左右に揺れる橋を渡ると乗越までの標高６６０ｍの急登が待っている。本日最大の気合の入れどころ。つづら折りの視界のきかないゴロ石の急登をエッサカおっさか自分の趣味を呪いながら約２時間、乗越に到着。他パーティーも２～３組休憩中。いつの間にか広葉樹からシラビソ樹林帯へとかわっている。ここからはほぼ平坦道で湿原植物の生育する地帯を進む。途中沢水も確保できる。乗越から４０分くらいに２番目の吊橋がある。かなり危なっかしい橋をユラリゆらり揺られながら渡り、次は左からの急斜面のザレ場を谷筋に向かって下降する。落石と転落に注意しながらの歩行となる。鞍部は沢となっており手が切れそうな水が確保できる。この一帯はお花畑。オタカラコウ、トリカブト、センジュガンビ、ソバナｅｔｃが今は盛りと咲誇っている。ここから２３０３ｍＰｅａｋをトラバースして聖沢に出る。対岸の聖岳（３０１３ｍ）の岩壁を流れ下る２筋の白線、豪快な大滝が現れる。足元は目のくらむような垂直な谷底。張り出した岩場の遭難レリーフ目を引く。この辺り水平道でしばらく進むと樹林帯に入り降雨時には泥るんで苦労する地帯だろう。２０ｍくらい下降して聖沢の橋を渡る。昼食時間だが雲行が怪しくなったので先を急ぐ。聖平小屋と書かれた橋を渡り鬱蒼としたシラビソ帯、縞枯れ帯、トリカブトの群落。聖沢の源流近くの平坦地で軽い昼食。小屋はもうすぐ。１３時１０分聖平小屋着。気温１９℃宿の心使いWelcomeフルーツポンチの一杯が疲れた体に身に浸みた。夕食までのひと時をビール＆コーヒーで乾杯。夕日が谷間に落ちてゆく。小屋は満杯。夕食は３班に分かれ２０分の制限で、忙しい夕食となった。寝場はシュラフ一枚分。一杯気分で聖平の夢迷人となる。

↑聖登山口

↑吊橋

↑かなりヤバイ吊橋

↑赤石岳由来の赤い岩石

↑いたる所に沢水が

↑岩頭滝見台

↑聖小屋

↑癒しのフルーツポンチ

↑小屋の中の風景

８月5日(金)　聖平小屋～聖岳～兎岳～中盛丸山～百間洞(ヒャッケンボラ)山の家

【コースタイム】聖平小屋（5:05）…聖・茶臼岳分岐（5:10）…薊畑分岐（5:44）…小聖岳（6:50）前聖岳（8:15）…兎岳避難小屋跡（10:35）…兎岳（10:52）…中盛丸山（13:14）…百間洞山の家（14:20）泊

５：０５聖平小屋の前で素晴らしい朝日の写真を撮って出発する。朝日の赤が素晴らしい。

聖平から薊畑分岐までは高山植物のお花畑でマルバタケブキとキオンがビッシリ咲いていたり鹿に食べられて全滅したニッコウキスゲの後に残ったイブキトラノオを保護している柵があったりと動物も植物も生きるのは大変。

分岐からはダケカンバとシラビソの中を１時間ぐらい上ると森林限界に入りガレ場のジグザグ道が続く。小聖岳まで上がると左に大きな兎岳、正面には圧倒的な広がりを持つ聖岳が見える。イワツメクサ・タカネヒゴタイ・シコタンハコベ・トウヤクリンドウ・イブキジャコウソウ・ミツバシオガマなど上げればきりがないがガレ場の中に咲く可憐な花で疲れを癒しながら高度を上げて行く。

８：１５前聖岳(３０１３m)に登頂。日本アルプスで最も南の３０００m峰をクリア。

緑の山だと思いきや岩だらけの足場にふぅ～ふぅ～言いながら兎岳避難小屋の分岐広場に着いた。左下に避難小屋を見ながら　再び尾根筋を上り１０：５２聖平小屋を出てから６時間弱で３６０度の眺望を持つ兎岳(２８１８m)山頂に立つ。ピンクと白のタカネビランジのお迎えに感激。聖岳に負けず劣らずどっしりとした大きな山だ。

上がったらまた下りるのが山登りの常だけど石ころ道を下って上りかけたところにライチョウの親子がいて岩の上でポーズをとっている。そして案内するように上に上にと導いてくれたので楽に上がれたが、ライチョウに気をとられて水場のチェックをするのを忘れてしまった。急登の中盛丸山(２８０７m)は今日最後の上りとなる。百間洞(ひゃっけんぼら)山の家の豚カツとビールを目の前にぶら下げて喘ぎ喘ぎ高度を稼ぎ、１３：１４頂上に到着した。この山はこの先で上る荒川三山から見ても区別できるきれいな三角錐の山だ。１５分ばかり下りた鞍部で大沢岳へのガレた道と分かれダケカンバと高山植物のトラバース道を下り、百間洞山の家に向かう。途中で雨が降ってきたがたいしたことはない。が、今夜は宿泊者が多くて食事時間が２０分だったのでアツアツの豚カツだったのに味わって食べることが出来なかった。が、美味しかった。布団は一人１枚で良かった。ラッキー。

↑聖平小屋の夜明け

↑聖小屋の花畑

↑小聖岳から聖岳

↑聖岳山頂

↑兎岳山頂

↑中盛丸山にて

↑百間洞山の家

↑宿の名物　とんかつ

8月6日(土)　百閒洞山の家～百間平～赤石岳避難小屋～赤石岳～赤石小屋分岐～大聖平～荒川小屋

【コースタイム】百閒洞山の家 (5:23) …百間平 (6:40?50) …赤石岳 (9:02?26) …小赤石岳 (9:53) …大聖平 (11:36) …荒川小屋 (12:10) 泊

４：００静岡高校山岳部の子らが食事しているヘッドライトが美しい。５：２３出発し小川の辺を歩いてキャンプ場に向かい、花畑を経て尾根筋に出ると３６０度山々が見えるがどれがどの山なのかさっぱりわからない。どれか一つ分ったら周りの山が分りだすのだけど。

６：４０ひろい・ひろい百間平。夕べ野宿した二人が濡れたツェルトや靴を干している。晴れていれば満天の星空であったに違いない。百間平からは気持ちのいい岩尾根歩きであったが赤石岳避難小屋の下の方はトラバース道でありながら急坂を１時間ぐらいかけて上がり、９：０４赤石岳(３１２０．５m)に立つ。ここからは荒川三山を目の前に富士山を右手に見ながらの空中散歩を楽しみ小赤石岳へ上り大聖寺平へ下りるのだがこの下りの長いこと…これから赤石岳に向かっている人に会うと気の毒になってしまう。相変わらずのザレバ歩きで私も相当疲れているみたい。鞍部まで下りると大聖寺平の標柱がありここからは水平のトラバース道がずーっと先まで見える。ダケカンバとナナカマドの木立の中を下って行き１２：１０荒川小屋に到着。ちょっと早いが今日はここまで。豊富に水が使えるので身体を拭いて洗濯までしてしまった。夕食のカレーライスが絶品でお代わりしたから明日は元気かも。もう少し足を延ばして中岳の避難小屋に泊まる予定だったがここで正解。明日はいよいよ荒川三山でお花畑と空中散歩を楽しむことになる。

↑静岡高校の食事風景

↑百間平から赤石岳

↑百間平から聖･兎･中盛丸山

↑赤石山頂からの富士

↑赤石山頂より

↑大聖寺平のトラバース道

↑荒川小屋

↑名物の豚カツ

８月7日（日）荒川小屋～前・中岳鞍部～前岳～前・中岳鞍部～中岳～中岳避難小屋～荒川東岳～丸山～千枚岳～千枚小屋　泊

【コースタイム】荒川小屋（5:49）…お花畑（6:57-7:21））…前岳（8:02-17）…中岳（8:32）…中岳避難小屋（8:43-49）…荒川東岳（9:54-10:09）…丸山（10:37-11:13）…千枚岳（12:03-16）…千枚小屋（12:47）泊

４時起床。六日目となると疲れがたまって、いつもより３０分遅く目が覚めた。

日の出を待つこと２０分、東の空がだんだんとあかくなり、７時１５分悪沢からの日の出、太陽のまぶしいこと。雲一つない晴天。やはり日本一の山、富士山。来てよかった。山に登らなかったらこんな景色に巡り合わない。気温９℃の世界、５時４９分出発。標高差４００ｍの前岳を正面に、右手に富士山を見ながらの登山は感慨深いものがある。花畑の中を、今日一日私のために、みんなが自由に登れるように配慮してくれた。途中に花を保護する柵とゲートがあり、ゲートの中は赤黄紫色とりどりの花。ゲートを抜けると分岐につき、前岳・中岳・悪沢の荒川三山と続く。

分岐にザックを置き前岳頂上で記念撮影。各々正月用のハガキの写真にすると言いながら大はしゃぎ。みんないい顔している。吉岡さんからは、写真の構図の取り方などを伝授してもらい、一段と良い写真に。１０時に悪沢に到着。いつもはハアハア言いながらついていくのに、自分で先頭に立って登ると足取りも軽い。みんなが来るのを待つのもよいものじゃ。悪沢できょう誕生日の岸本さんと私たちと居合わせた人たちでハッピバースデイーを歌いました。悪沢からの下りは岩ゴロゴロ、私にヒヤリハット、一つ足場を間違えると大変。悪沢から丸山に到着。四方丸く展望がよく、ここでコーヒータイム（吉岡さん悪沢を見ながら一人悠久の時を過ごしている。千枚岳は思ったより岩をガンガン登る山だ。（みんな遅いぞー）山は何枚もの岩が重なり合っているこれが山の由来だそうだ。１２時４７分千枚小屋に到着。吉岡さんの計らいで百間洞の小屋から中岳避難小屋までの間に一つ小屋を増やしてもらって良かった。いつもながら到着後のビールの美味しいこと。昼ご飯兼ねてもつ煮をいただいた。美味しかった。

↑荒川小屋の夜明け

↑荒川小屋からの富士

↑お花畑

↑前岳山頂

↑中岳避難小屋

↑荒川東岳山頂

↑千枚岳の岩場

↑千枚小屋

8月8日(月)千枚小屋～駒鳥池～蕨段～椹島ロッジ

【コースタイム】千枚小屋（5:23）…駒鳥池（6:11～6:21）～蕨段（7:25）…小石下（9:00）…中電鉄塔（9:50～10:20）…滝見台（11:21）…椹島（11:40）

朝の気温１０℃千枚小屋は一段と富士山に近く今日も快晴。今回は恵まれた山行きだ。富士山のきれいなこと。５時２３分出発するダケカンバの樹林帯を歩く。途中シラベ探検隊の方に逢い、あたり一帯に林立する木々を見て、＜トウヒ（エゾマツ）幹が黒い＞＜シラベ(トドマツ)幹が白い＞ことを教わった。このあたりを管轄する東海フォレストの方だと知る。なだらかな下り道に駒鳥池の標識。木々の合間にコケむした幻想的空間が見える。池のほとりに倒木が横たわり木漏れ日が湖面に反射して四次元の世界を駒鳥がヒエヒエ鳴きながら舞い降りて来るそんな時空間帯だ。９時５５分中京の鉄塔広場。４時間歩き続ける。標高１４３９m地点、１１６１m下山した。でコーヒータイム。ここからは岩場の急下降。前を歩いていた男の人が岩場で転倒、顔面打撲で瞼の裂傷でかなりの出血、４人で応急処置をしてあげた。携帯が圏外で、救助要請出来ないため、応援要請と負傷者介護の２班に分かれて応急行動をとり負傷者の救助をするという思いがけない救助劇。無事救護員に引き継いだ。その後負傷者は救難ヘリで搬送された。その後、椹島のバス、乗り合いタクシーに乗り継ぎ無事に静岡駅に到着。新幹線の待時間にお疲れの乾杯。登れたという達成感で一段とおいしいビールでした。吉岡さん浅井田さん岸本さん本当にありがとうございました。無事下山できたことに感謝しています。

↑千枚小屋の夜明け

↑駒鳥池

↑コーヒータイム

↑林道間近の吊橋

↑救難ヘリ

↑無事の下山を祝して乾杯

▲..目次へ戻る..

８月定例会

比婆山　大膳原

納涼＆グルメ山食

【期　日】８月２０日・２１日

【コース・タイム】８月２０日（土）　六の原駐車場(10:43)→出雲峠(11:30)小休止→烏帽子山(12:20)昼食→大膳原小屋(13:25)
８月２１日（日）　大膳原小屋(7:45)→御陵(8:35)小休止→六の原駐車場(10:05)

予報通り連日の「酷暑」。この日も広島市の最高気温は３７度が予測されている。そして今日も憎たらしい快晴。ただし東・北日本を中心に熱帯低気圧、台風接近もあって雨模様の日々で、南アルプスをめざす個人山行は中止になったようだ。

＊　　＊　　＊

六の原駐車場９時半すぎ到着。木陰はさすがに凌ぎやすい。　　の持ち込んだ多量の食材を各自が担げるだけザックへ、１５ｋｇ以上は覚悟してもらわねばと詰め込み出発。出雲峠で休憩、烏帽子岩山で昼食。二十数名の行列とすれ違い小屋泊まりの混み具合が心配されたが、けっきょく佐伯山の会独占のひと夜だった。向かいの広場草地端にはテント３張り。

泊付きの山行で食料担当となると食欲、栄養と軽量化の相矛盾するテーマをかかえて妥協点をどこかにするかで悩みは尽きない。ドライ加工技術の進歩のおかげでお湯さえあればとにかく空腹と必要なカロリー・エネルギーは満たせる。汁物、麺類、野菜類などバラエティー豊富で味もよい。カレー、丼物にすると何も考えずにすべてドライフーズで１食分まかなえる。ただ食欲が完全に満たされるかどうかはご存じの通り。そんな山食をめぐ

大膳原は暴飲暴食で夜が更けて・・・・

る煩悶とはかけ離れた今回のメニューのおかげでザックは重かった。

登り１時間半、小屋までの下り３０分。ニンジンを目の前にぶら下げられた馬と同じくヒトも食欲に対しての馬鹿力が本能的に備わっているらしい。不平もなくみんな頑張った。頑張ったおかげで鯨飲鯨食、愉しく賑やかな納涼グルメの夜が更けた。

＊　　＊　　＊

参考までにメニューを書いておく。ステーキ肉特上１００ｇ各自１枚。豚肉の汁。山芋とタラコのサラダ。鮎の混ぜご飯。ウィスキー。焼酎。特筆は　　が持ち込んだ日本酒１升瓶「雨後の月」を山水で冷やして。

ところが軽量化無視のメニューがひと夜で終わりにならないところが凄い！！

朝食は昨夜の残りの汁にプラスしての雑煮。来たときよりもきれいに・・・小屋を清掃して今日も残酷な快晴でムンムンの大膳原を後にして、ほぼ全員が御稜を経由して六の原の駐車場へ下山。ＣＬの予定を衆議一致けっ飛ばし昼食は駐車場そばの河原で昼食にした。豚の焼き肉、鳥飯、鮎飯、具だくさん味噌汁、ソーセージの野菜炒め。満足の昼食完了。

費用を精算し庄原のかんぽの湯でひと汗流し、載った体重計の数値は減るどころか増えていた。こんな山行も一年に一回は身体に許してあげよう。

▲..目次へ戻る..

個人山行　岩見(益田市･浜田市)地方山々1人旅

広島県に住んでいると、県内の山々は何度も行くが、島根県内の山々は中々行けるものではない。

分県登山ガイド島根県の山にはまだまだ未知の山が沢山ある。今回は島根県西部岩見地方の山々をガイドブックを片手に 10 座(盛太ガ岳・知倉沼・三子山・横山城跡・大道山・大麻山・魚山・弥畝山・日晩山・天狗山)どんな山かと期待して車中泊での１人旅は気ままに歩きました。

今回行く山はどの山も標高は低く、余り有名でない山は最近は登山者も少ないのか、以前整備された道も夏草が茂り歩きにくい状況であった。

今回の登山した岩見地方山々

52 盛太ガ岳

左：登山口近く田圃には沢山のかかしが置かれまるで人がいるようだ。

右：盛太ガ岳頂上でハイポーズ

50 知倉沼

左：知倉沼の奥に：知倉権現に参拝

右：知倉沼の奥に：知倉権現に参拝

46 三子山

左：三子山南峰に通じる林道登山口が、林道工事中のため判りにくくなつている。

右：雨の中三子山中峰にてハイポーズ。

48 横山城跡

背丈もあるような夏草に追われこれでは観光コースを歩く気にもなれない。

44 大道山

左：小雨がやんで大道山頂上でハイポーズ

右：二等三角点の傍に珍しい票柱

37 大麻山

左：頂上には無線鉄塔が乱立している。

右：大麻山神社の社務所裏の良く手入れがされている枯山水の庭園は素晴らしい。

36 亀山

左：登山者が言われるのに、魚船が港に帰るのにこの山を目印にしたことから山名が付いたと聞かせられる。

右：道の左右で樹種が異なり整然と整備された登山道

38 弥畝山

左：風力発電の風車が 30～４０基設置されている。

右：風力発電の整備用の道が整備され登山道は判らなくなっている。

40 日晩山

左：波田の道は萩から匹見通って廿日市に通じる萩往還の道を歩く。

右：日晩山峠に着くと４基の句碑がある。

45 天狗山

左：七滑ノ滝(手水ノ滝)で手を洗い清める。

右：山頂にある大きな天狗岩は素晴らしい。

▲..目次へ戻る..

個人山行　薬師岳･黒部五郎岳

【日　時】８月４日（木）～７日（日）

【コースタイム】８／４（木）大阪市内～名神高速～北陸道立山 IC～有峰林道亀谷料金所

８／５（金）折立 7:00～五光岩ベンチ 10:20～太郎平小屋 11:20～薬師平 12:20 昼食～薬師岳 14:10～太郎平小屋泊 16:25

８／６（土）太郎平小屋 5:00～北ノ俣岳 7:00～中俣乗越 8:10～黒部五郎岳 10:00～中俣乗越 11:10～北ノ俣岳 12:50～太郎平小屋 15:00～五光岩ベンチ～三角点～折立 17:30～18:00「里の湯　雷鳥」泊

８／７（日）ロッジ発 8:00～北陸道～大阪市内 13:00

皆さん、こんにちは。清家です。今回は北アルプス北部の薬師岳・黒部五郎岳へ行ってきました。

８月４日（木）２１：３０頃大阪を出発し、翌５日の３時頃に有峰林道入口に着くが、先に着いている関東組のメンバーもいないし、１台も車がいない。(有峰林道は夜間２０：００～６：００迄通行不可）たまたま地元の人

が来たので、聞くと場所が間違っており、小１時間迷って「小見線」の亀谷料金所に到着すると、すでに小型バス含む２０数台の車が６時の開門を待って並んでいた。時間が来て折立迄移動し、慌ただしく朝食や支度をし、６：５０出発。折立登山口からすぐ右側に十三重之塔があった。これは、昭和３８年に愛知大学山岳部の１３人が、豪雪と吹雪と寒気の為、遭難した慰霊碑である。

夜中に雨が降ったのかぬかるんだ粘土質の登山道を登る。樹林帯の中であるが、早くも汗が額から流れ落ちる。暑い中、順調に高度を上げていく。８：１５　１８７０m三角点着。ここにはベンチもあり、スタートしてから小休憩するには丁度いい。９：５０五光岩ベンチ着。３～４組が休憩している。太郎平小屋迄あと少しだ。木道が多くなってきたが、距離はまだ長い。意識して小屋からの体力を温存する。１１：００太郎平小屋着。平日なのにやたら人が多い。そういえば朝に小型バスを数台見かけたのを思い出す。少々ゆっくり目の昼食を取る。小屋の人から明日は午後から積乱雲が出て、天気が変わるかもとの情報があり、今日午後から黒部五郎へ先に行こうか、との提案が出たが、小屋の人に５時間少々かかるし、それは無理だ、と言われ、予定通り薬師岳へ向かった。サブザックに変更し１３：００頃スタート。きれいな稜線が見える。アップダウンを繰り返し歩く。空は晴れているのにたまにポツポツ小雨が降ってくる。１３：４０薬師岳山荘着。空を見上げるとすでにガスが広がりつつある。

１４：３０休憩。頂上がはっきりと見えてきた。あとひと息。１５：００　北アルプスの女王、薬師岳２，９２６ｍに到着。楽しみにしていた３６０°の眺望はガスが出てあまり見る事が出来なかったのが残念。　あとはひたすら太郎小屋へ戻る。ツアーか何かで団

体さんもあった為か、満員でひとつに布団に約２名程度の詰め込みの中、２１時頃就寝。

８月６日　４時過ぎ起床。結構起きている人も多い。今日の予定では、この太郎平小屋

にもう１泊であったが、２日めは早く出て、折立まで一気に下山し、温泉に入って休みたいとの声があり、それもそうだと折立周辺のロッジに変更した。５時に朝食とお弁当を受け取り、出発。歩いていくと下方に雲海が見える。久々に見る眺めだ。１時間程登った見晴しのいい場所で朝食。ど真ん中奥に槍ヶ岳、手前右側に笠ケ岳がはっきり見える。雄大な景色だ。６：３５北ノ俣岳２６６２m着。ここから中俣乗越まで下り、また長い登り返しだ。暑さの中、バテそう。頑張って９：５３予定通り約５時間で黒部五郎岳２，８４０m到着。記念撮影後、先も長いので、早々に出発。太郎平小屋までの下山中、熱中症のような症状があり、水も準備不足、手違いの為不足しスピードが落ちてくる。疲労感が抜けない。アップダウンを何度も繰り返しまだかまだかと思いながら、何とか小屋に到着する。浴びるように水をかぶったり、飲んだりした。小休止のあと、すぐに出発。五光岩ベンチ、三角点を過ぎ、樹林帯の中を汗だくで下山中にメンバーの一人の左足にアクシデントがあり、後ろで支えながら下山して行く。静かなヤブの中で、急にザワザワと大きな音が鳴り、何か大きな物が歩くような音が聞こえ、「クマか？」とビビる。いろんな事が起こり、時間が取られ下山時刻が遅れていくが、１７：００頃無事下山。すぐにお風呂や食事が待ってるロッジへ向かう。このメンバーでは初めての縦走であった。長い距離できつかったけど雄大な縦走コースを歩いた事はいい経験になった。いろんな気づきがあった事、それを次回の注意点としたい。

８月７日　朝いち、大阪へ向かい、無事帰宅をしました。

▲..目次へ戻る..

個人泊付山行

火打山～妙高山縦走

２０１６年８月１４～１７日（日～水）

8月14日(日)　晴れ

７時　　宅を出発して五日市インターから一路、新潟に向かう。山陽～舞鶴～北陸道までは順調に進んだが上信越道に入ってから断続的な渋滞に巻き込まれ、杉野沢温泉の秀雲荘には大幅に遅れて到着した。泊り客は我々４人だけのようで周りを気にせずにくつろぐことができた。長旅運転お疲れ様です。地ビールで乾杯です。

8月15日(月)　くもり時々雨のち晴れ

【コース・タイム】笹ヶ峰登山口 7：30→黒沢橋 8：25～30→富士見平 10：10～20→高谷池ヒュッテ 11：15～14：30→らいちょう平 15：25→火打山頂上 15：55～16：00→高谷池ヒュッテ 17：30

1

2

3

4　5　6　7　8

６時からの朝食を済ませ、６時４０分に火打山に向けて出発。笹ヶ峰登山口に７時到着。７時３０分に**木造のゲート①**をくぐって出発。樹林帯の中に**木道②**が続いていて、ブナ林を緩やかに登ると、一時間位で黒沢橋に出る。黒沢橋を渡った頃から急登になりシラビソの樹林帯に入る。**１２曲がり③**はきついが**富士見平④**の分岐からは少し緩やかになる。**高谷池ヒュッテ⑤**１１時１５分到着。標高２１０５ｍだ。着いたとたんに大雨で、１６時ごろには晴れるということで大休息。

昼食を済ませ十分にくつろいでから雨が止んだ１４時３０分に水と少しの行動食を持って小屋から火打に向けて出発。途中お花畑あり、**天狗の庭⑥**あり、**らいちょう平⑦**を経て**頂上直下⑧**では晴れ間が出たものの１５時５５分に**火打山頂上⑨**に到着した時は残念ながらガスの中だった。一瞬の晴れ間、ここから登山禁止となっている焼山の煙が見えた。

１６時下山開始、１７時２９分小屋に到着。ギリギリ１７時３０分からの夕食に間に合った。

夕食はカレーライスとハヤシライス、ラッキョウ、福神漬け、セルフで食べ残しの無いように。夕食後火打山の四季のビデオを鑑賞、生ぬるいビール・酒・焼酎を嗜みつ山談議で盛り上がり楽しいひとときを。２１時就寝。

8月16日（火）　くもりのち晴れ

【コース・タイム】高谷池ヒュッテ 6：10→黒沢池ヒュッテ 7：10～30→長助池分岐 8：30～40→妙高山頂上 9：45～10：25→長助池分岐 11：30～40→黒沢池ヒュッテ 12：45～13：30→富士見平 14：25～30→黒沢橋 16：05→笹ヶ峰登山口 17：00

４時３０分起床、５時３０分朝食、６時１０分**出発⑩**。２１７１ｍの茶臼山を通り１時間ほどで**黒沢池ヒュッテ⑪**に到着。出発時は晴天だったが、少し雨が降り出した。

ヒュッテに荷物を置き、カラ荷で妙高山ピストンへ。大倉乗越から**お花畑⑫**を経由して**長助池分岐⑬**へ。ここからは岩ゴロゴロの急登、水平距離１キロを１時間かけての**厳しい登り⑭**で９時４５分に妙高山頂上に到着。

このころまではガスっていたのに、着いたとたん**雲一つない青空⑮**に変身、私たち４人を迎えてくれた。最高！！妙高山２４５４M、南方に１０分岩場に行く途中の**お花畑⑯**が素晴らしい。ここに妙高大神が祭ってあったので**４人で記念撮影⑰**。

なんて私達は天気に恵まれているのでしょ

9　10　11　12　13

14　15　16　17　18

う。四方の山々、**長助池⑱**や**妙高山⑲**を見ながら、青空を満喫して下山。１２時４５分に黒沢池ヒュッテへ到着。私は妙高を甘く見ていた。水５００ml 一本だったので、水分不足でのどがカラカラ。ここで昼食のラーメンを食べた。ラーメン最高！ここも水が大切で、水をあまり使用したくないそうでラーメンにも水は付いていなかった。

１３時３０分、炎天下でのアップダウンは厳しいが、花々が迎えてくれる。黒沢ヒュッテを出て少し行くと、**黒沢池⑳**沿いにリンドウに縁どられた木道がしばらく続く。黒沢の源流を渡り、樹林帯を進むと富士見平の分岐にたどり着く。ここで小休止。

１２曲がりを経て、１６時０５分に黒沢橋に到着、かなりのタイムオーバー。ここからは樹林帯の中の木道をひたすらに１時間歩くと**笹ヶ峰の木のゲート(21)**に１７時到着。とにかくお疲れさま！

杉野沢温泉の苗名温泉で垢を落とし、今日の宿泊先である信州小布施にある**ゲストハウス(22)**へ。夕食は近くのソバ屋に直行、生ビールと地酒で乾杯！これまた、お疲れさま！！

8月17日(水)　晴れのちくもり

蔵を改修した**ゲストハウス小布施(23)**のスイートルームは素敵で１階２階ともベットが二つあり、朝食はまた別棟でこじゃれたものをいただいた。宿を出て北斎館を見て、岩松院訪問。岩松院は広島にゆかりのある福島正則の**お墓(24)**がある曹洞宗のお寺だ。

このお寺の天井の絵は北斎の作品で、１６０年前のもの、天井画はどこから見ても**鳳凰(25)**が睨みつけているそうだ。１２枚のヒノキの板に描かれており、当時のお金で１５０両、今では６０００万円位だそうだ。顔料は当時のままで、色も褪せていなかった。

＊　＊　＊

今回の旅は山もよく、版画あり、絵あり、また往復の車中では聖子ちゃんなどのナツメロをバックに糖質ダイエットの話で盛り上がり楽しくバラエティーに富んだものでした。

お世話になりました。ありがとうございました。

19　20　21　22　23

24　25

▲..目次へ戻る..

会心の山

自転車で★山に登る

２００８年６月８日

しまなみ海道はいま国内のみならず海外からも注目されるようになったサイクリングコースです。さらに３つのコース、大島上・下島から呉につながる「とびしま海道」、江田島・能美島「かきしま海道」、呉から尾道の海岸線を走る「さざなみ海道」の瀬戸内サイクリングロードが紹介されるまでになりました。上記４つのコースはそれぞれ海岸線に沿ったコース主体ですが、すこし道をそれて縦横に走る広域農道を見つけると眺望のよいヒルクライムも楽しむことができます。その一つを紹介します。

＊　　＊　　＊

島の道路は一部の幹線道路を除き、信号はほとんどなく行き交う車両もまれで安心快適に走行が楽しめます。広島港から４５分、能美島三高港をおりて短い町並みを過ぎると結構な斜度で海岸の巻道が始まります。坂の途中から砲台山への道に入るとさらに斜度を増し、小さなカーブも小刻みに連続します。ここでは耐えきれず足が止まりました。しかし振り返ると多島美の瀬戸の海が眼下に広がります。ひと休みして舗装道路をギシギシとペダルをさらに踏み、ようやくたどり着いた頂上の広場は砲台遺構があり絶好の展望台となっています。

下りは山頂からは沖美町是永の港町に向かっての一気にダウンヒル。こちらはカーブの半径も緩く見通しがきき、スピードも出せます。下りきると沖美町の透明感のある海辺の平坦路がしばらくつづき、越えるべき能美町への才越峠はちょっと脚には堪えます。くだ

って先は島内一番の幹線道路となり、一気に交通量がふえ信号も続出。やがて大型スーパーやドラッグストア、ホームセンターなどのある能美島と江田島のつなぎ目の渡ノ瀬でます。そのＴ路交差点にある「海辺の新鮮市場」で昼食。味噌汁、魚飯お代わり自由「お刺身定食」の昼食（好きな刺身トレーを選んで精算それを持って２Ｆで食事）がおすすめです。

ゆったり昼食を終えると海上自衛隊第一術科学校の赤煉瓦の建物に海辺を向かって走ります。その門前を通過するとすぐに狭い町中のきつい・交通量の多い峠道を走ります。この場所がもっとも緊張します。幹線道路の峠の手前で左に入り、別の峠を越えて海上自衛隊の施設のつづく海辺をしばらく走ります。そして最後の長い峠である「江田島青少年交流の家」入り口を越えると呉方面とくに烏帽子岩山黒ナメラの岩場が印象的に眼下に広がり下ってゆきます。終着点の切串港ももうすぐです。切串港からは１時間に１本はフェリーの便があり、脚を休めつつゆったりと時間が流れてゆきます。

▲..目次へ戻る..

ノスタルジックな道具たちⅡ

コールマンＭ５２０をご存知だろうか？戦時下 米軍の過酷な要求（－51℃～+52℃で作動し、１クォートのミルク缶に収まり、多種燃料が使用可）をコールマン社が具現化したヘビーデューティーなバーナー・・・と答えたあなたは相当なマニアだと言わざるを得ない。「戦争による武器以外での発明品はジープとＧＩストーブだ」と言われたほどで、その後、民生用として発売された５３６、５３８はこのＤＮＡを受け継ぎ山屋の憧れの品となった。山用品の殆どが欧州品の時代、北米からシロアリの如く足元を犯し始めたのがコールマンとＴＮＦだった。私もホエーブスの７２５（小ブス）にしようか？と思っていた矢先、こいつの開発秘話、性能を知って所有欲はピークに達した。持っているだけで頼もしいが、珈琲を沸かすのに、ポンピング、プレヒート、着火、ポンピングとこの「儀式」が何ともたまらない。着火するや周りから注目を浴びる「ゴオーッ」という凄い轟音。何しろ消火した時「山ってこんなに静かだったんだ」と思えるほどだが、あの静寂がこれまた好きだった。これがあるから山はやめられないとさえ思った。この頃プリムスからカートリッジボンベ式が出てはいたが、火力、使用環境、汎用性からしてガソリン仕様を手放す気にはなれなかった。唯一欠点は「重い」こと、おまけにテント内での使用はプレヒートで下手するとキャンプファイヤ状態になって危険を伴った。しかし何があってもこいつさえあれば遭難はしないと本気で思っていたので、乾燥食料の湯沸かしでしか使わなくてもザック内の重量と体積は長い間変わらなかった。昨今、登山形態がよりパーソナル化し、

Light&Fast のかけ声のもと、バーナーはカートリッジ式が主流となった。私もスノーピークの「地」に変えて身軽にはなったが、同時に思い出も軽くなりはしないかと思うこの頃である。

▲..目次へ戻る..

定例集会 議事録

【期　日】８月１０日

・１９時　安達　山行計画書の閲覧について一しっかりと計画を立てる
・１９時０６分　　山行案内　　葦嵩山について
　　納涼会について
・１９時１１分　山行報告
　　★十方山　臥龍山縦走
　　★船倉山折敷畑山　　★三嶺・剣山
　　★山行計画書の記入の具体例
・１９時３７分　　会報「まど」について
・１９時４０分　運営委員会より★山行の保険の扱いについて
・２０時０５分　　県連バスのお誘い
・２０時０７分　安達会長の沢登りについて
　　初心者用
　　服装　沢の歩き方　　沢の地形　　岩場の地形　　沢の危険 と対処の仕方
　　事故が起こったら
　　動植物の危険
・２０時２５分　山行の参加者の回覧
・２０時４０分　終了

▲..目次へ戻る..